

令和7年9月 定例教育委員会会議録

〈 開会 10時00分 〉

開 催 日	令和7年9月24日（水）10時00分～11時35分			
開 催 場 所	半田市役所 庁議室			
出 席 委 員	教 育 長	榊 原 雅 晃	委 員	堀 崎 隆 資
	委 員	新 美 大	委 員	久 米 宏 和
	委 員	桂 優 子	委 員	正 村 日 登 美
説 明 の た め 出 席 し た 職 員	教 育 部 長	森 田 知 幸	学 校 教 育 課 長	内 藤 誠
	主任指導主事	木 下 稔 章	給食センター所長	榊 原 秀 夫
	生涯学習課長	青 木 美 希	ス ポ ー ツ 課 長	門 田 和 博
	スポーツ課主幹	河 合 信 二	図 書 館 長	藤 井 寿 芳
	博 物 館 長	関 正 樹	新美南吉記念館長	遠 山 光 嗣
事 務 局	学校教育課総務担当主査 羽根 広			
報 告 事 項	■報告事項 (1) 令和7年9月半田市議会定例会の報告について (2) 寄附、後援願等について (3) 「半田ハッピーウィーク」取組の紹介について (4) 児童生徒(園児)の交通事故・問題行動等について (5) 令和7年度地区公民館（協和公民館）職員の異動について (6) 第37回新美南吉童話賞の応募状況について (7) 各種事業について ①まちなかでアート「巨大キャンパスに“ごんぎつね”の世界を描こう！」 ②まちなかでアート「和太鼓パフォーマンス&演奏体験 in 半田ぴよロ グスポーツパーク」 ③第78回半田市美術展 ④第5回はんだアール・ブリュット展 ⑤クリスマスコンサート ～オーケストラで聴く まちに流れる名曲たち～ ⑥令和7年度後期分 半田市講座・イベント情報誌 ⑦令和7年度市内区民展等開催日程表 ⑧読み聞かせボランティア養成講座 ⑨豊かな感性を育む絵本の世界 ⑩文化財よもやま話 ⑪旧中埜家住宅の窓装飾 ⑫楽しく学ぼう！わくわく！けんちく！ ⑬旧中埜家住宅と歴史あるあいちのたてもの ⑭写真で見る昭和の学び舎時代 ⑮みんなの南吉展			

各課事務連絡	新美南吉記念館
--------	---------

＜議事録＞

1. 前回の会議 録の承認	(事務局) 8月定例会の会議録について概要説明 → 承認
2. 教育長報告	(教育長) 8月22日、現職教育実践発表会が開催された。ご参加いただいた委員の皆様、ありがとうございました。先生方それぞれが何らかの学びを得ていることを期待したい。 23日、子ども科学体験教室が開催された。多くの親子が来場し、大変な賑わいを見せていた。講師は、学校の先生を始め、地元企業、高校生、ボランティアの中学生など。様々な立場から参加いただき、まさにこういったものをコラボレーションというのだろうと感じた。体験する子どもたちが楽しそうなのはもちろんだが、体験を提供している大人も楽しそうにしていたのが印象的だった。 9月6日、先ほどのコラボレーションの1つである少年少女発明クラブの発表会があった。40点以上の作品が出品され、子どもたち一人ひとりが順番に自分の作った発明品について説明し、プレゼンしていた。その後、優秀作品に選ばれた7つの作品は、11月に開催される県の創意工夫展に出品され、そこでも上位に入れば全国への進む。 この半田の少年少女発明クラブは歴史的には10年強続いているが、他市の様子を聞くと、発明クラブを立ち上げること自体に大変苦労されているよう。半田市は多くの協賛企業や指導者がいて、活動場所もツカサ工業に提供いただいております、本当に恵まれているなと感じた。 19日、文教厚生委員会の決算審査があり、その中で、令和6年度を踏まえて教育長が課題と捉えることを3点あげてほしいと言われた。そこで、1.不登校対策、2.教員の働き方改革、3.部活動改革をあげた。いずれも半田市だけではなく、我が国全体の課題であると同時に今年度以降も教育委員会として取り組んでいく課題であり、今後の対策や改革の方向性等について広く市民の理解を得ていく必要がある。特に2,3は言葉として聞いたことがある人は増えていると思うが、本当に広く理解されているのかなと感じることもあるので、理解が進むよう積極的に説明していきたい。 20,21日には雁宿小学校で防災キャンプが開かれた。学校の話によると、募集した100名の枠が比較的短期間で埋まったそうで、防災への関心の高さが伺える。災害時には学校が避難所になるが、地域住民や市職員が運営に加わるようになってきたことで、教職員が参加しなくてもやり切れる体制が整っている。しかしながら、本当に大災害が起こったときは、教職員も非常事態への対応が求められると思う。休日のイベントとは別の機会になるだろうが、非常時に地域住民と連携した動きができるよう、日頃から学校としても準備しておくことも必要である。

3. ■報告事項 1) 令和7年9月半田市議会定例会の報告	(教育部長) 教育関係で2人の議員から一般質問があった。 チャレンジはんだの伊藤正興議員からは、主題1「小学校における熱中症対策について問う」、要旨1「小学生の登下校時における熱中症対策について」、質問①「半田市において児童の登下校時間の最長は何分程度と認識していますか」と質問があった。 半田市の小学校における登下校時間の最長は、片道50分程度であることを確認していると答弁した。 次に質問②「これまで登下校時に熱中症を発症した児童はいますか」と聞かれ、過去3年間において、登下校時に熱中症により緊急搬送等された児童いない。しかしながら、熱中症の疑いがあったものとして、昨年度は7月に下校後の頭痛について保護者から報告を受けた事案が1件、今年度は登校中の体調悪化について訴える児童をしばらく保健室で休ませた事案が5月に2件、6月に2件あったと答弁した。 次に質問③「登下校時の熱中症対策についてどのように取り組んでいますか、また、保護者に対してどのように注意喚起していますか」に対しては、まず、登下校時の熱中症対策としては、ネッククーラー等の冷却グッズや日傘の使用、スポーツドリンクや塩分タブレットの持参、ランドセルに代えてリュックサックでの登下校を認めるなど、各学校において柔軟に対応している。また、繰り返し熱中症の危険性を伝え、登下校時には必ず帽子をかぶることや、しっかり水分補給することなどを促したり、市内のクーリング・シェルターの利用について周知したり、様々な取組を進めている。また、保護者への注意喚起としては、学校だよりなどを通じて熱中症予防について周知し、毎日の十分な睡眠や栄養バランスのよい朝食を取らせて体の抵抗力を高めるなど、家庭における体調管理についてお願いしているところだと答弁した。 つぎに質問④「これまで保護者より登下校時の熱中症対策について要望等ありましたか」に対しては、保護者からは、昨年度から今年度にかけて、市や学校に対し、ハンディ・ファンの使用を認めることや、冷却グッズを冷やす冷凍庫を校内に設置することなどについて、数件のご要望やお問い合わせをいただいていると答弁した。 次に質問⑤「他の自治体では様々な新たな熱中症対策を行っています。半田市でも児童の命を守るため、登下校時の熱中症対策の強化が必要と考えますが見解を伺います。」に対しては、半田市においても様々な熱中症対策を進めているところだが、今後も引き続き、他の自治体の取組などについて情報収集を行い、先進的な事例については、その効果や問題点などを検証しながら、幅広く熱中症対策の強化に取り組んでいく必要があると考えていると答弁した。 続いて、創造みらい半田の竹内功治からは、主題1「半田市立博物館の魅力をより高める取組について」、要旨1「半田市立博物館の魅力を高める取組」、質問①「半田市立博物館の魅力を高めるために、どのようなことを行っていますか」と聞かれ、博物館の魅力を高めるため、常

設展示に加え、年に数回テーマを定めた企画展を開催することで、来館者の皆さまに何度でも足を運んでいただけるよう努めている。半田の文化人に関するテーマや時節柄世間の注目を集めるテーマを選定し、来館者の皆さまの知的好奇心を掻き立てるような内容で開催している。例えば、昨年度の企画展「全国鉱物採集の旅」では、半田市出身の鉱物収集家のコレクションを展示した結果、来館者数は 32,391 人となり、3 万人の大台を超えたのは平成 11 年の特別展以来 25 年ぶり、歴代 7 番目の来館者数となった。企画展開催中には、収集家本人の記念講演会や鉱物鑑定会、学芸員によるミネラルファンデーション作りや黄鉄鉱さがし体験講座などのイベントを実施し、好評を得た。また、企画展以外では、県内複数のミュージアムと連携し、賞品・特典付きのラリー企画「愛知やきものヒストリー」や「ひなまつりスタンプ・シールラリー」に参画することで、同一テーマによる各館の展示をゲーム感覚で周遊見学していただく機会を提供し、来館者増加を目指している。これらの取り組みを通じて、単なる展示施設ではなく、地域の歴史や文化を学び、楽しめる魅力的な空間として、市民の皆さまに愛され、親しまれる存在となるよう取り組んでいると答弁した。

次に質問②「子どもや若者、若い家族が来館したくなるような展示やイベントを積極的に行い、若い世代からの来館を増やす取り組みを行ってはどうですか」に対しては、子どもや若い世代が本市の歴史文化を学び、親しんでもらうことは、郷土愛を育む上で非常に大切である。そのため、博物館への来館促進に力を入れて取り組んでいる。具体的には、子どもたちが興味を持って見学できるよう、常設展示や企画展を対象としたクイズラリーを実施し、楽しみながら学べる機会を提供している。さらに、今年の夏休み期間には、初めての試みとして、「博物館で夏祭り」を開催した。けん玉、めんこ、お手玉、すごろくといった昔のおもちゃ体験や輪投げ、射的などの縁日体験を無料で実施することで、子どもや親子の方々の来館を促進した。また、市内の小中学校と連携して、書写展、美術展、造形展等の児童・生徒の作品展示を行っている。これらの展示は、家族での来館につながっており、常設展示や山車展示も見学いただくなど、相乗効果を生み出している。今後も継続して実施することで、博物館への関心を高めていくと答弁した。

次に質問③「現在のところ、Instagram の登録者数は約 200 人です。もっと SNS の活用を力を入れて、半田市立博物館の魅力を発信してはどうですか」に対しては、近年、デジタルネイティブ世代への効果的な情報発信手段として、Instagram などの SNS を活用することが重要となっており、博物館でも今年度から Instagram による情報発信を開始した。ご指摘のとおり現時点での登録者数は多くはないが、一方で、7 月 26 日から 8 月 24 日までの博物館公式 Instagram の閲覧数 17,520 回のうち、71.5% は登録者以外の利用者であり、登録者以外にも広く情報が届いていると手ごたえを感じている。現状では、博物館や旧中埜家住宅の企画展、イベント情報を中心に発信しているが、今後は、博物館の展示や収蔵資料の解説、市内文化財の価値や魅

	力を発信するなど、内容の充実を図り、より多くの皆さまに博物館の魅力を伝える取り組みを展開していくと答弁した。 次に質問④「半田市の魅力を高め、市民の誇りの醸成につなげるために、半田市立博物館が中心となり、文化財について、広く分かりやすく発信してはどうですか」に対しては、市内の文化財の価値や魅力を発信し、市民の皆さまの誇りを醸成することは、博物館にとって重要な役割であり、責務であると認識している。そのためには、文化財を分かりやすく広く発信していくことが重要である。例えば QR コードを使った詳細情報への誘導や、先の質問でお答えしたインスタグラムを通じた文化財解説、その他各種の媒体を活用して、文化財や歴史等の詳細情報を発信していくと答弁した。 質問⑤「半田市立博物館の魅力と愛着を高めるために、常設展示物のリニューアルを行う考えはありませんか」に対しては、博物館の展示については、令和３年度に策定した「半田市立博物館展示整備基本方針」に基づき着実に実施してきた。これまでに、未公開資料を含む収蔵資料の活用、ホームページの充実、移動式展示ケースを利用したエントランスでのミニ展示、実際に触ることのできる体験的要素を取り入れた展示などに取り組んでいる。現在、常設展示物の大規模なリニューアルを行う予定はないが、博物館の魅力をより多くの皆さまに発信していくため、引き続き収蔵している貴重な資料をデータ化し、デジタルサイネージやタッチモニターを活用しての公開を積極的に実施していくと答弁した。
2) 寄附、後援 願等	(学校教育課長) ・ 寄附 1 件 ・ 後援名義使用許可 23 件 (桂委員) No. 8の「海と蔵のはなし読み聞かせ会」について、もう少し詳しく教えてください。 (学校教育課長) 亀崎郷土文化協議会という地域の団体が、亀崎の海運業や蔵などに関係する地域の歴史をまとめた冊子がある。それを元に亀崎中学校の生徒がボランティアで読み聞かせを行うイベントで、主な対象は小中学生だと認識している。 (桂委員) 対象は亀崎小学校の子だけか。どのように広報されるのか。 (学校教育課長) 教育委員会としては、9月中旬に小中学校の保護者連絡アプリで市内全域の保護者に案内し、併せて児童生徒のタブレットからも見られるよ

	うにした。現実的には亀崎の子が多いと思うが、別の地域から参加してもいい。 (久米委員) 後援の期間は4月1日からでいいか。 (学校教育課) 今回のイベント自体は9月30日だが、これまでも継続して活動されており、それも含めて後援申請があったので許可した。 (新美委員) 9月30日は火曜日だが、中学生ボランティアが読み聞かせを行うのか。 (学校教育課長) 開始時間が17時30分からであるため、中学生も放課後に参加できる。
3)「半田ハッピーウィーク」取組の紹介	(主任指導主事) 10月1日から始まる半田ハッピーウィークに合わせて各学校が学校公開を行うにあたって、先生方の意欲喚起をするとともに工夫する際の参考にしてもらうために、令和6年度取組みの中から参考にしたい取組をピックアップしてまとめたものを作成し、市内の小中学校に送り、全教職員で共有した。 これら以外にも、いくつも授業実践の報告は集まってきているが、その中でも通常の道徳の授業であるとか、通常の授業以外で各先生方がテーマを決めて授業実践を工夫されたものについてという観点でピックアップした。 これを参考にして、今年度もより工夫された授業実践が展開されることを期待している。 (正村委員) 去年より見やすく先生方もやる気になってくれるような気がするが、先生方にはこの資料はどうやって渡すのか。カラーだと見やすくいい。 (主任指導主事) 昨年度もカラーで作ったが、配色などは少し変えている。配布方法は、データで各小中学校に送付している。 (新美委員)

	保護者には配布されないのか。 (主任指導主事) 保護者に配布する予定はない。教職員向けに、幸せ教育について創意工夫の後押しになるようにという思いで作ったものである。保護者に配布できなくはないが、想定して作っていない。 (新美委員) 今回はそれでいいが、今年のハッピーウィークを終えて、その取り組みの報告として、各学校でこういったことに取り組んでいるんですよという保護者向けの通知を作ってもいいのではないかな。それをきっかけに家庭でも幸せについての会話が弾むような半田市になってほしい。
4) 児童生徒(園児)の交通事故・問題行動等	(指導主事) 令和7年8月9日～令和7年9月12日の交通事故・問題行動等について。 交通事故：0件 問題行動(被害)等：2件 7月23日(水) 1件 7月24日(木) 1件 交通事故以外の事故：3件 9月11日(木) 2件 9月12日(金) 1件 学校等被害等：1件 9月10日(水) 1件 不審者情報：1件 9月9日(火) 1件
5) 令和7年度地区公民館(協和公民館)職員の異動	(生涯学習課長) 協和公民館主事の遠藤氏が体調不良により8月末で退任。9月1日付けで石井氏を選任し委嘱した。石井氏は保育士で、現在も白山保育園で会計年度任用職員として働いている。兼務になるが、勤務時間は調整済みであり問題ない。
6) 第37回新美南吉童話賞の応募状況	(新美南吉記念館長) 今年の新美南吉童話賞の応募結果。 今年の童話賞ですが、9月10日に締め切り、一般の部 929 編、中学生の部 491 編、小学生高学年の部 24 編、低学年の部 24 編、オマージュ部門 301 編で、合計は前回より 132 編増の 1,769 編だった。 半田市内の学校の応募としては、乙川中学校が 53 編、青山中学校が 34 編と数多く応募くださった。その他の小学校からの応募は多くて1桁、小中学校とも応募なしの学校もあるなか、乙川中と青中は頑張ってください。

	今後のスケジュールとしては、10月19日に第一次審査会、11月24日に最終審査会を行って受賞作を決定し、12月中旬に発表する。例年11月発表だったのを半月遅らせたのは、最終審査員から審査期間をもっと長くしてほしいという要望があったためで、それにもない例年2月に行っていた表彰式も3月7日（土）13時30分からとし、さらにコロナ禍以降クラシティにしていた会場も新美南吉記念館に戻す。 （新美委員） 全体では応募点数が増えているが、小学生のうち特に高学年がすごく減っている。こういった要因があると考えているのか。 （南吉記念館長） 去年は、市外の学校からまとまった応募があったが、今年はそれがなくなった。それ以外にも要因はあると思うが、明確な要因は不明である。
7) 各種事業について ①まちなかでアート「巨大キャンバスに“ごんぎつね”の世界を描こう！」 ②まちなかでアート「和太鼓パフォーマンス&演奏体験 in 半田ぴよログスポーツパーク」 ③第78回半田市美術展 ④第5回はんだアール・ブリュット展 ⑤クリスマスコンサート ～オーケストラで聴く まちに流れる名曲たち～ ⑥令和7年度後期分 半田市講	（生涯学習課長） 今年度もイベントの秋、芸術の秋がやってきたので、各種イベントについて紹介する。 ①前回の定例教育委員会でも新美南吉記念館長から「ごんの秋まつり」についてお知らせがあったが、このイベントの中の一つとして、生涯学習課が「巨大キャンバスに“ごんぎつね”の世界を描こう！」を開催するもの。イベントなどでテーマに合わせて絵を即興で描くライブペインターの先生に来ていただく。生涯学習課としては初めてお声がけする先生だが、これまでも市内でいろいろなイベントをやっているそう。ヒガンバナが咲き誇る矢勝川沿いにテントを張って、そこに大きなキャンバスを用意して来場者に絵を描いてもらって、最後に先生が仕上げるという形。また、完成した作品は、様々なところで展示したいと考えている。 ②和太鼓パフォーマンスと演奏体験を、半田ぴよログスポーツパークで開催するもの。演奏者は知多おやこ劇場和太鼓同好会の和太鼓斗色さん。当日はどなたでも無料で参加でき、同時に伝承遊び体験もやっていただけるので、親子で楽しく参加いただき、いろいろな人に聞いていただきたいと思っている。太鼓はすごく響くので、広い場所で開催できるのは楽しみである。 ③毎年開催している第78回美術展。今年度は10月24日から26日の3日間の開催となる。最終日は、市民ロビーで華やかに表彰式を行う予定をしている。 ④美術展と同時開催する第5回はんだアール・ブリュット展。今回で5回目を迎える。昨年度のアール・ブリュット展は、サテライト会場と

座・イベント情報誌 ⑦令和7年度市内区民展等開催日程表	してスターバックス店舗での展示を試みたが、今年度もスターバックス店舗に協力いただき、サテライト会場を設けて作品の周知を行う。併せて、いろいろなワークショップも行う。 ⑤セントラル愛知交響楽団のクリスマスコンサートで、12月13日（土）に瀧上工業雁宿ホールで開催する。2部制となっており、1部が幼児・親子向け、2部が小学生から大人向けという形で世代を区切り、ターゲットを絞って開催する。 クラシックオーケストラだが、比較的クリスマスにちなんだ聞き馴染みのある曲もあるので、多くの方に楽しんでいただけたと考えている。 ⑥令和7年度後期分 半田市講座・イベント情報については、また時間のあるときに目を通していただきたい。 ⑦市内の各地域で区民展等が開催される。地域の団体の皆様の作品や、地元の小学生の作品等が展示されているので、お近くの会場に足を運んでいただければと思う。
⑧読み聞かせボランティア養成講座 ⑨「豊かな感性を育む絵本の世界」の開催	（図書館長） 図書館からは、読書の秋としてイベントを紹介する。 ⑧市全域で活躍しているきりんの会に協力いただいてボランティアの養成講座を開催するもの。元ラジオアナウンサーの方を講師にお招きし、11月1日（土）から全3回のコースで開催する。 ⑨親子でほっと音と絵本のひとときということで、音楽と絵本を組み合わせたもの。昨年度も開催している。11月16日（日）に半田市立図書館で開催する。
⑩文化財よもやま話 ⑪旧中埜家住宅の窓装飾 ⑫楽しく学ぼう！わくわく！けんちく！ ⑬旧中埜家住宅と歴史あるあいちのたてもの ⑭写真で見る昭和の学び舎時代	（博物館長） ⑩文化財よもやま話は、郷土の歴史や文化財について、文化財専門委員の先生がテーマを決めて研究発表を行うもので、今年は全8回の講座をチラシに記載の日時、時間、テーマで、各回定員50名で行う。事前申し込みは不要。 ⑪旧中埜家住宅の窓装飾は、8月に開催したグラスデコ講座、2日間で計124枚の海の生物やヨットなどのグラスデコを作成していただいた作品を使って、9月10日から旧中埜家住宅の窓を装飾している。窓装飾の写真を撮って博物館受付に見せていただいた方には、ささやかなプレゼントをお渡しする。旧中埜家住宅の窓装飾は、重要文化財旧中埜家住宅の外観活用として行うもので、10月半ばまで開催予定。 ⑫楽しく学ぼう！わくわく！けんちく！、⑬旧中埜家住宅と歴史あるあいちのたてものについては、昨年は同じ日に行っていたイベントだが、大変好評だったので、今回は2日間に分けて行うもの。「楽しく学ぼう！わくわく！けんちく！」は、半田工科高校建築デザイン科にご協力いただき、VR や製図版体験等の各種ミニ体験が楽しめるイベント。「旧中埜家住宅と歴史あるあいちのたてもの」は、建築家の^{かけひきよすみ} 笥清澄氏、建築史家の村瀬良太氏ご協力いただき、簡単飛び出すカードの制作体験や建

	築史家の特別ガイドツアーなどが楽しめるイベント。建築を学ぶ地元高校生や専門家の方々と一緒に、明治末期の優れた建築である旧中埜家住宅を建築・建築デザイン・建築史の視点から学ぶとともに、子どもたちや建築初学者の方にも親しみやすく、建築・歴史的建造物のおもしろさを伝えていきたい。開催日時等は資料に記載のとおり。 ⑭写真で見る昭和の学び舎時代は、11月15日（土）、16日（日）に、旧中埜家住宅の第9回目となる特別公開を開催するもの。今年度は、「写真でみる昭和の学び舎時代」をテーマに開催する。内容として、テーマ展示では、旧中埜家住宅の昭和時代を彩った「桐華洋裁学校」（現在の公益財団法人桐華学園 桐華ファッション専門学校）の創立75年を記念して、当時の様子を写した写真を展示する。また、関連イベントでは、エンボス加工体験や紙作品と昔から親しまれているおもちゃのミニコーナー、桐華ファッション専門学校さんのファッションショー、パラコードを使ったキーホルダーづくり体験など、小さなお子さんから大人まで楽しめる内容を考えている。この場所で、世代を超えて楽しいときを過ごし、その喜びを分かち合える幸せを感じていただけるような公開日にできたらと思っている。
⑮みんなの南吉展	（新美南吉記念館長） ⑮市立つくし学園をはじめ市内の児童発達支援施設の子どもたちが新美南吉をテーマにアート作品を作って展示するもので、今年で5回目の開催となる。障がい者支援に関わる社会福祉法人、日本福祉大学の関連会社、クラシティなどが中心となり、市としてもつくし学園、生涯学習課、南吉記念館など複数の課が関わっている。期間は赤レンガ会場が9月23日から10月13日、クラシティ会場が10月1日～10月13日。支援施設の子どもたちだけでなく、多様な個性と世代の人たちが南吉をテーマに出品しているので、ぜひご来場いただき、皆さんにご紹介いただければと思う。
■各課からの事務連絡	（新美南吉記念館長） 2点紹介する。 まずハナノヒカリプロジェクトについて。10月3, 4, 5日の3日間、矢勝川沿いの彼岸花のライトアップを行うもの。加えて、今年は4日（土）の夜にチラシのようなイメージでスカイランタンを上げる。「ごんぎつね」の情景を再現した彼岸花咲く矢勝川で、「おじいさんのランプ」をイメージしてスカイランタンを空にあげようとするもの。まわりから見ることは誰でもできるが、スカイランタンを上げるのは前もってチケットを購入した人に限る。 2点目は、10月に上演される南吉のお芝居について。佐藤B作氏主宰で50年の歴史を持つ劇団東京ヴォードヴィルショーが、「狐と南吉」という芝居を東京で上演される。実は3年前に上演のお話があって、佐藤氏自ら半田に来られて記念館や南吉の生家などをご覧になっており、

	今回上演となったもの。 (桂委員) スカイランタンを上げるのは何時か。 (新美南吉記念館長) 打ち上げは4日の19時から。スカイランタンは人気があると聞いていたが、参加費 5,000 円は少し値が張ると思い、控え目に50個にした。無事に完売したため、当日購入はできない。 (新美委員) 購入者は半田の人が多いか。 (新美南吉記念館長) 半田市内の方もいるが、市外の方も多し。彼岸花を見に来られるのは高齢の方や家族連れが多いので、若い世代にも来てもらうことを狙って開催するもの。
■教育委員からの意見提言等 (1)	(堀崎委員) テレビドラマでスクールロイヤーが登場するものがあり、半田市にもスクールロイヤーがいるといいなとすごく思った。半田市で新たに雇うことは予算のこともあって難しいかもしれないが、教育委員会の顧問弁護士との契約内容を拡充し、何かあったときの保護者説明会に同席してもらったり、過度な要求をする保護者と管理職との面談時に同席してもらったりできるといい。学校としては非常に心強く、そういった場面に同席いただくことで、感情的な議論になることの抑制も期待できる。また、SNSの普及等で増加している子どもの犯罪被害等についての話なども、弁護士からしてもらえると生徒への入り方も違ってくると思う。 (学校教育課長) スクールロイヤーの新たな雇用は考えていないが、顧問弁護士との契約内容の拡充は考える必要があると思う。 (主任指導主事) スクールロイヤーは、愛知県教育委員会が学校現場でのいじめや不登校、虐待や保護者とのトラブル等が深刻化する前に解決を図ったり、学校での様々な問題に対して、専門的な知見を取り入れることで早期解決を目指し、教員の負担軽減を図るとともに、児童生徒の利益を保護することを目的に教育事務所に配置している。県内での配置のため調整は必要だが、相談はできる。

教育委員からの 意見提言等 (2)	(久米委員) 夏休みの作品募集について。ここ数年で応募者が激減していると感じている。これは、先生方の働き方改革の影響もあると思うが、学校において授業で学ぶこと以外の学習、体験の機会が減ってしまっているように感じる。宿題にすると子どもたちはもちろん、先生方や家庭の負担が増えて大変なのは理解できるが、取り組んだことで成長できると思うので、こういった現状は寂しさを感じる。習字、作文、ポスターなどの募集があると思うが、先生方からも児童生徒へ積極的に取り組むようにPRしていただけるといいなと思う。ある近隣市は、募集チラシの配布はさせてもらえずHPで紹介するのみとも聞いた。 (主任指導主事) すべての学校で実施しているかは把握していないが、各団体等からの作品応募の一覧は今まで通り作っており、配布するときには先生方からも声かけはしていると思う。ただ、以前と大きく違うのは、これまでは宿題として、この中から一つ選んで提出、これは全員提出といったように提出することが前提だった。読書感想文も、課題図書か自由図書か選んで提出、自由研究も一つ以上は提出とすることが多かった。学校によっては、評価にも反映させていた。一方で、これらの作品等の提出状況をチェックしたり、回収して選定することが教職員の大きな負担になっていた。今は、学校で選定するのは断るようにし、評価には反映させず、子どもたちの興味に応じて自由参加という形にしているものが多い。その結果として、今のようになっている。児童生徒や保護者からは、今の形になってよかったという声もあり、非常に難しい問題。
教育委員からの 意見提言等 (3)	(桂委員) 夏休みの間に、中学生がいろいろなイベントなどでボランティアに参加している場面に出会い、すごくいいなと思った。地域のお祭りや、スポーツ課のイベント、小学生の学習支援など。彼らに話を聞くと、暇だったからと言う子もいたりして、それぞれの理由で参加していると思うが、そういったところに出てきてくれることで地域の人との繋がりもできる。地域の人にとっては、子どもたちが参加すると活気が出て楽しい。子どもたちにとっても、何らかの役割を任せられて、誰かに楽しんでもらえたり感謝してもらえたりすることは、すごく大切な経験だと思う。ただ、イベントのボランティアだと、当日の活動だけで終わってしまうことも少なくない。中学生にボランティアを頼む側も、準備の段階から一緒に考えて作っていくとか、発展性があるとさらにいいと思った。また、そういった活躍の場が広がるといい。

	(教育長) 私もいろいろとイベントなどに出かける中で、中学生が活躍する姿は何度も見た。
教育委員からの 意見提言等 (4)	(新美委員) こども園の建替えについて。今、進めているのは成岩幼稚園と協和保育園が一つになると聞いているが、進捗はどうか。 (学校教育課長) 成岩幼稚園と協和保育園を統合し、成岩地区のこども園として令和9年4月に開園予定。 (新美委員) 亀崎幼稚園が建替えに伴って幼稚園型の認定こども園になった際、地元で反対の声が強くなったりして、理解を得るのに時間を要した記憶があるが、今回はそういった声はないか。 (学校教育課長) 地元への説明会は既に実施し、特に反対の声は聞いていない。亀崎のときは、名称を亀崎こども園とするのか、亀崎幼稚園とするのかが大きな課題の一つだったと聞いている。今回は、こども園の建設に反対する声は聞いていないが、建設予定地でこれまで地域の行事をやっていたので、それを今後はどうするのかという意見はある。 (久米委員) 亀崎のときは、幼稚園に保育園の機能も一緒になることで幼稚園の良さが損なわれることを心配して署名運動があった。
■その他	(教育長) 現在、堀崎委員に務めていただいている職務代理者について、通例により1年の任期としており、9月末でその任期が終わる。 職務代理者は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項により、教育長が指名することとなっているので、10月からは新美委員を指名させていただく。どうぞ1年間よろしくお願いします。
次回開催等	(事務局) 10月定例教育委員会 日時：10月23日(木) 10時00分～ 場所：半田市役所4階 庁議室

	(教育長) 9月定例教育委員会を終了する。
--	--------------------------

〈 閉会 11時35分 〉